

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成24年10月19日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 辻 井 昭 雄 様

所 属 部 局 京都大学再生医科学研究所

職 名 教 授

氏 名 瀬 原 淳 子

助 成 の 種 類	平成24年度・研究成果公開支援・国際会議開催助成		
事 業 内 容	第18回小型魚類研究会 開催		
開 催 期 間	平成24年 9月22日 ～ 平成24年 9月23日		
開 催 場 所	京都大学芝蘭会館(稲盛ホール、山内ホール)		
参 加 者	総 数 212 名	内 訳 事前登録参加者 185名(うち、事務スタッフ 13名) 招待講演者 2名 当日参加者 25名	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(要旨集)		
会 計 報 告	事業に要した経費総額	3,217,627 円	
	うち当財団からの助成額	1,500,000 円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 企業協賛金(¥1,100,000), 参加費等徴収金(¥1,157,000)	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	会場費(芝蘭会館)	341,820	341,820
	会場設備費(ポスターパネル等)	628,950	628,950
	招待講演者旅費	185,800	89,230
海外若手発表者・震災被災者サポート	440,000	440,000	
飲食費(懇親会・昼食代等)	1,203,770	0	
人件費	129,000	0	
物品費、その他雑費	288,287	0	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)		

成果の概要／ 代表者：瀬原淳子 報告者：飯田敦夫

18th Japanese Medaka and Zebrafish Meeting 開催の趣旨

小型魚類は研究室で簡単に飼育でき、安価に維持できるモデル生物として多くの研究者が使用している。近年では動物愛護の観点からマウスなどの哺乳類ではなく、卵生の魚類へシフトするケースも増加し、今後もこの傾向が続くと考えられている。卵（体外）で胚発生する魚類は、マウスなど哺乳類では行えない発生の研究で真価を発揮し、胚が小型であるためことからイメージング分野でも活用されつつあります。世界的にはゼブラフィッシュが多く使用されているが、日本ではメダカも用いた研究も活発である。このような小型魚類を用いた研究者の情報交換の場として「**Japanese Medaka and Zebrafish Meeting**（小型魚類研究会）」は20年ほど前に発足し、主に基礎生物学研究所（愛知県）・国立遺伝学研究所（静岡県）・名古屋大学・東京大学など関東・東海地方を会場として毎年8-9月に開催されてきた。この間にゼブラフィッシュ・メダカともナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）のモデル実験動物として選定され、コミュニティも成長し、最近では外国人演者を招待して国際学会としての側面も持ち始めた。一方で、研究者間の情報交換の場としてコミュニティミーティングを会期中に開催し、NBRP始動後は新たなリソースや技術普及の場としても機能している。

第18回目となる本会の京都での開催はこれが初めてである。最近では京都大学や関西の研究機関からも小型魚類を使った重要な研究が発表されており、関西地域での開催により小型魚類研究がさらに活性化されると考えている。

研究会の内容

日程：2012年9月22-23日（2日間）

会場：京都大学 芝蘭会館（医学部構内）

基調講演：招待講演者 Dr. Phil Ingham（シンガポール）、Dr. Anming Meng（中国）

一般講演：35演題

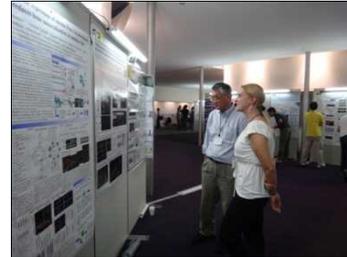
ポスター発表：63演題

その他：懇親会、コミュニティミーティング

参加者：212名（海外の研究機関からの参加者25名）

研究発表について

18th Japanese Medaka and Zebrafish Meetingにおける研究発表は「基調講演」「一般講演」「ポスター発表」が行なわれた。発表における使用言語は全て英語とし、国内外のトップクラスの研究者により活発な議論が展開された。



学生による一般講演者の中から2名の優秀口頭発表賞を、招聘演者、組織委員会および各セッションの座長による投票で選抜した。加えて学生によるポスター発表者の中から3名の優秀ポスター賞を参加者による投票で選抜した。



学生口頭発表賞（2名）

- ・清水 浩仁（カリフォルニア大学）
- ・井上 摩耶（名古屋大学）

学生ポスター発表賞（3名）

- ・安齋 賢（京都大学）
- ・細貝 春（日本女子大学）
- ・西川 穂高（東京大学）

企業協賛について

本研究会は計18社の企業から、15件のプログラム集への広告掲載および6件のブース出展という形での協賛を受けた。



出展内容の紹介は講演合間のコーヒブレイクの時間に設けられ、全国の研究者と企業の担当者間で有意義な情報交換が行なわれた。

参加企業は以下の通りである。(順不同)

- ・株式会社名東水園 MEITO system
- ・ライカマイクロシステムズ株式会社 Leica Microsystems K.K.
- ・和研薬株式会社 WAKENYAKU CO., LTD.
- ・清水実験材料株式会社 SHIMIZU Laboratory Supplies Co.,Ltd.
- ・株式会社イワキ IWAKI CO., LTD.
- ・株式会社池田理化 IKEDA SCIENTIFIC Co., Ltd.
- ・オリンパス株式会社 Olympus Corporation
- ・株式会社キーエンス KEYENCE CORPORATION
- ・ナカライテスク株式会社 NACALAI TESQUE, INC.
- ・株式会社めだか本舗 MEDAKA HONPO
- ・株式会社栄屋理化 SAKAEYARIKA CO., LTD.
- ・東洋紡績株式会社 TOYOBO CO., LTD.
- ・株式会社カーク CaHC
- ・シグマ光機株式会社 SIGMA KOKI CO., LTD.
- ・理科研株式会社 RIKAKEN CO., LTD.
- ・テクニプラスト・ジャパン株式会社 TECNIPLAST JAPAN CO., LTD
- ・株式会社ニコンインステック NIKON INSTECH CO., LTD.
- ・日京テクノス株式会社 Nikkyo Technos Co.,Ltd.

コミュニティミーティングについて

研究発表終了後、日本の小型魚類コミュニティ参加者による情報交換を目的としたコミュニティミーティングを開催した。本研究会の会計報告および、国内外の研究会・実験講習会などの告知が行なわれた。また、19th Japanese Medaka and Zebrafish Meeting の開催地として宮城県仙台市（幹事：東北大学）が提議され、全会一致で承認された。

以上をもって、18th Japanese Medaka and Zebrafish Meeting を閉会した。